

# 総合型地域スポーツクラブの質的充実に関する研究

## ～コミュニティネット SSC 大泉を事例として～

生涯スポーツゼミナール 1314034 末松 遥

### 1. 研究動機・研究目的

わが国の重要な政策課題の一つとして、誰もが、いつでも、気軽に参加することができる生涯スポーツの実現がある。この生涯スポーツの実現のために国民が日常的にスポーツを行う場として期待される総合型地域スポーツクラブの全国展開を最重点施策として計画的な推進が図られてきた。1995年に総合型地域スポーツクラブの育成事業が開始されてから22年が経過し、クラブの「量的拡大」やその後の運営についての先駆的に担ってきた世代から、次世代に引き継ぐ時代に差し掛かっており、クラブが持続的に発展するための施策や取り組みを推進していく必要がある。文部科学省によると、総合型地域スポーツクラブの持続的な発展には、PDCAサイクルの観点から、自己点検・評価を実施し、改善・充実を図ることが課題であり、クラブの自立的な発展に向けた「質的充実」に重点を置いた施策を展開していくことが重要だ。

泉田(2011)の「NPO法人フォルダ」の事例研究によると、「人材、財源、情報、事業、制度」の各項目で課題が明らかになり、再度、総合型地域スポーツクラブの必要性や位置付けを検討する必要があることを述べ、クラブ運営に対して提言を行っている。

本研究では、東京都練馬区の「コミュニティネット SSC 大泉」を対象に、クラブの発展・運営に対してどのような質的充実に重点を置いた施策や取り組みが行われているかを把握すると共に、今後に向けての改善点を明らかにし、総合型地域スポーツクラブの発展に対する提言を示すことを本研究の目的とする。

### 2. 研究方法

調査対象：コミュニティネット SSC 大泉

調査方法：①調査1 クラブの運営組織の形成と運営の特徴に関する聞き取り調査(クラブスタッフ13名)

②調査2 クラブの運営評価に関する質問紙調査(クラブスタッフ1名)

③調査2 クラブの運営評価に関する聞き取り調査(クラブスタッフ1名)

調査期間：①平成27年11月5日②平成27年10月6日③平成27年11月5日

調査内容：①SSC大泉の形成過程と運営の現状に関する聞き取り調査

②「SPORTS MARK WorkBook Te Haakinakina Tohutohu(2000)」を参考に作成した質問145項目と13領域で構成したクラブの運営評価に関する質問紙調査

③クラブの運営評価に関する質問紙調査の結果を見ての感想

### 3. 主な結果と考察

調査1と調査2共に共通した課題が明らかとなった。一つ目は運営体制の見直しである。SSC大泉では、新事業の取り組みが現在のクラブ運営に大きく影響していることがわかった。そこで、継続的な運営体制の改善と充実を図っていくために、PDCAサイクルの観点から評価指標を用いた自己点検・評価を実施していくことが重要ではないだろうか。二つ目は人材の確保である。約30名のスタッフで運営を行っているが、スタッフの高齢化により、技術的で専門的な事業が行えなくなったり、スタッフ一人当たりの負担が大きくなったりしていることが明らかとなった。また、イベントを行う際のボランティアの高齢化やボランティアの減少も課題の一つとして明らかとなった。そこで、特に若い世代の人材確保に向けての情報発信や活躍できるクラブづくりが必要ではないだろうか。これらの人材の確保は、現在のSSC大泉の多忙さの解消にも繋がると考えている。三つ目は問題解決のための行政や地域との協働した取り組みを行うことである。SSC大泉では、活動拠点の大泉学園町体育館の改修工事による代替りの施設確保が問題の一つである。そこで、総合型地域スポーツクラブの問題や課題には、行政等で共有し、地域全体で協働して解決に取り組むことが解決の糸口になるのではないだろうか。

### 4. 結論

本研究の結果を踏まえた上で、今後の総合型地域スポーツクラブの質的充実を図るために、SSC大泉を参考にその運営に対して主に以下のことを提言する。

- ①PDCAサイクルを用いた、継続的な運営体制の改善・充実を図ること
- ②クラブを支える新たな人材(特に若い世代)の確保
- ③行政等の公共機関や組織とクラブで問題や課題を共有し、協働して解決に取り組んでいくこと

### 5. 卒業論文の執筆を終えて

本研究を行うにあたり、多くの方にご協力を頂きました。ここに感謝の意を表します。SSC大泉の茨田さんには、私が3年生の頃にSSC大泉でのボランティアを受け入れてくださり、総合型地域スポーツクラブについてたくさんのことを教えていただきました。SSC大泉で体験させていただいた教室やイベントは私にとって貴重な学習の場となり、今回の卒論研究をはじめ、ゼミ活動に大きく役に立ちましたことを、深く感謝いたします。最後に、指導教員として熱心に指導して下さった黒須先生には、大変お世話になりました。先生には、私が3年生の時にSSC大泉をご紹介いただき、学習の場を与えてくださったことに心から感謝をしています。また、いつもお忙しい中、卒論の面倒を見ていただき、的確なアドバイスやご指摘をいただき、先生のおかげで卒論を最後までやり遂げることができました。この2年間の間、ご指導、ご鞭撻して下さった黒須先生に深く感謝いたします。